

労働政策フォーラム

若者と向き合うキャリアガイダンス

*VRTカードを活用した
キャリアガイダンス*

日本体育大学

本間啓二

自己理解				基礎的・汎用的能力				人間関係 社会形成 自己理解 自己管理 課題対応 キャリアプラン 論理的思考力 創造力 意欲・態度 勤労観・職業観
テーマ	A-1 職業興味の理論と解釈							
ツール	職業レディネステスト、VRTカード							
ねらい	ホランダの職業興味領域の分類に基づいて自己理解を深める。 グループ活動による相互理解と対話力・コミュニケーション能力の向上							
実施学年	1年生後期～3年生前期							
実施時期	職業レディネステスト(A-2)、VRTカード(A-4、A-5)の実施前に行う							
適正人数	60名～120名							
実施手順		学習の流れ	時間	留意事項				
		本時の説明	5分	パワポを準備し、ホランド理論の講義、ワークシートによる個人作業とグループにまとまって発表する授業の流れと授業のねらいについて説明する。				
		職業興味領域の講義	35分	職業選択における興味領域の重要性について解説し、ホランダの6領域についてパワポを使って説明する。受講生はワークシート1.に要点をまとめさせる。				
		ワークシート「2.好きなことの書き出し」	5分	これまでの経験から自分の好きなことや関心のあることを各自ワークシートの2.に書き出す。				
		ワークシート「3.職業興味の評価」	5分	ワークシートの3.において、6領域の職業興味について10段階で自己評価し、隣り合わせた興味領域を線でつなぎ、折れ線グラフを作る。				
		ワークシート「4.職業興味の志向性」	10分	ワーク2.の自分の興味関心の特徴やワーク3.のグラフなどを振り返り自分の職業的志向性について各自で考えまとめる。				
		グループ編成(3～5人)	5分	3～5人のグループを近くの受講者同士でつくる。				
		グループ内での発表	20分	ワーク4.の職業興味の志向性とワークの感想について一人ずつ、各自まとめた内容をグループ内で発表する。				
		講師からのコメント	5分	本時のねらいが達成できたか確認の質問をする。				
評価観点	ホランダの職業興味領域の分類に基づいて自己理解を深められたか。 相互理解と対話力・コミュニケーション能力が向上できたか。							
資料	「職業興味から見た自己理解」ワークシート			講義のメモをとり、自己理解のワークを行うためのワークシート。				
	パワーポイント資料			職業興味領域の講義で使用する。				
備考	職業レディネステスト、VRTカード(A-4、A-5)の実施後に行うこともできる。 本時を実施しない場合は、A-2の職業レディネステスト実施後の「結果の見方・生かし方」実施時に解説を加える必要がある。							
							2	

職業興味から見た自己理解

1. ホランダの職業興味領域について講義をまとめましょう。

R		S	
I		E	
A		C	

2. 好きなことや興味・関心のあることを書き出してみよう。

3. これまでの好きなことや興味・関心のあることから自分の職業興味を評価してみる。
(10点満点でR I A S E Cを評価し、折れ線グラフを作る。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
R										
I										
A										
S										
E										
C										

4. 自分の職業興味の志向性についてまとめてみよう。

職業選択における興味領域の重要性について解説し、ホランダの6領域について解説する。

ワークシートに要点をまとめさせる。

これまでの経験から自分の好きなことや関心のあることを書き出す。

6領域の職業興味について10段階で自己評価し、隣り合わせた興味領域を線でつなぎ、折れ線グラフを作る。

自分の職業的志向性について各自で考えまとめる。

グループ内で職業興味の志向性とワークの感想について発表する。

ホランド理論のアプローチ

同じ職業に就いている人々は、類似したパーソナリティ特性とパーソナリティ形成史を示すものが多い

人間の行動は、個人のパーソナリティとその人の住んでいる環境との相互作用の産物である

職業選択理論の中核

P

我々の文化圏において、大多数の人は、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6つのパーソナリティ・タイプのうちの1つに分類される。

E

我々の生活する環境には、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6つの種類がある。

P→E

人は、自分のもっている技能や能力が生かされ、また自分の価値観や態度を表現でき、かつ、自分の納得できる役割や課題を引き受けてくれるような環境を探し求めている。

E→P

個人の行動は、その人のパーソナリティとその人を取りまく環境との相互作用によって決定される。

R型(現実的タイプ) Realistic

- ・機械や物に対する関心が強い。
- ・対人的、社会的出来事への関心は乏しい。
- ・機械を操作したり、物を作る能力に恵まれている。
- ・対人接触が不得手で、それを必要とする仕事を好まない。

【関連のある職業領域】

- ・動植物管理の職業
- ・工学関係の職業
- ・熟練技能の職業
- ・機械管理の職業
- ・手工芸技能の職業・機械、装置運転の職業
- ・生産技術関係の職事

I型(研究的タイプ) *Investigative*

- 抽象概念や論理的思考に強い関心を持つ。
- 合理的で几帳面であると同時に、内向的である。
- 物事を数理的に処理し、論理的に考え、解釈する能力に恵まれている。
- 知的にも、教育的にも要求水準が高い
- 指導性や統率力はあまりない。
- 物事を1人で成し遂げることを好み、グループでの活動を好まない。
- 科学や芸術に対して高い価値を置く反面、社会的、経済的あるいは政治的問題に対してはあまり関心を持たない。

【関連のある職業領域】

- ・動物、植物生理学関係の職業
- ・物理科学関係の職業
- ・社会調査研究関係の職業
- ・生産工学関係の職業
- ・数理、統計学関係の職業
- ・医学関係の職業
- ・情報処理関係の職業

A型(芸術的タイプ) Artistic

- 音楽、美術、文学などに強い関心を示す。
- 独創性や想像力に恵まれている。
- 繊細で感受性が強い。
- 型にはまるのを嫌い、規則や習慣を重視せず、自分の感性や独自性を大切にする。
- 内向的で、自分や他者の感情に敏感なため、衝動的になりやすく、不安感が強い。

【関連のある職業領域】

- ・ 美術、彫刻、工芸関係の職業
- ・ 舞踊関係の職業
- ・ 文芸関係の職業
- ・ 音楽関係の職業
- ・ 演劇、演出関係の職業
- ・ デザイン、イラスト関係の職業

S型(社会的タイプ) *Social*

- ・人に教えたり、援助したり、人と一緒に活動するのが好む。
- ・責任感が強い。
- ・他者に対する洞察力に富む。
- ・人に対し親切かつ寛大である。
- ・さまざまな人と良好な人間関係を作ることができる。
- ・人の気持ちを理解し、敏感に反応することができる。

【関連のある職業領域】

- ・社会奉仕の職業
- ・医療保健関係の職業
- ・各種の対個人サービスの職業
- ・学校教育、社会教育関係の職業
- ・販売関係の職業

E型(企業的タイプ) Enterprising

- ・新しい事業や計画を企画したり、組織作りをしたり、組織を動かすなどの活動を好む。
- ・権力や地位を重視する。
- ・指導力、説得力、表現力に恵まれ、積極的で社交性に富む。
- ・他人に従うよりも、自らリーダーシップを発揮して、新しい仕事を開拓していくことを好む。

【関連のある職業領域】

- ・経営管理関係の職業
- ・広報、宣伝関係の職業
- ・営業関係の職業
- ・管理的事務関係の職業
- ・財務関係の職業
- ・報道関係の職業

C型(慣習的タイプ) *Conventional*

- ・反復的な事務的色彩の濃い活動などを好む。
- ・規則や習慣を重んじる。
- ・さまざまな状況に対しても順応的、協調的である。
- ・几帳面で、ねばり強く、また自制心に富んでいる。
- ・人との和を重んじ、属する集団を一つにまとめることを重視する。
- ・人々の間に葛藤や混乱を起こさないように行動する。
- ・自発的、創造的に行動したり、自己主張をして自分がリーダーシップをとるよりも、権威者の指示に従うことを好む。

【関連のある職業領域】

- ・経理事務関係の職業
- ・警備、巡視の職業
- ・一般事務の職業
- ・文書整理、保管の職業
- ・法務関係の職業
- ・編集、校正関係の職業

VRTカード実施手順

2人ずつペアを組んで実施する。

ペアになる学生が向かい合うようにして着席。

全体の進行に関する教示を行う。

ペアになった学生同士が交代でVRTカードの分類ワークを行う。
(読み手が1枚1枚カードを読み上げ、回答者に手渡す。回答者は受け取ったカードを読んで確かめた上で、分類カード上 やりたいーやりたくない にカードを置く。

読み手に読み上げてもらい、分類の山ごとに、その番号を結果・記録シートに記録する。

「やりたい」山のカードを裏返して職業名を上にするように結果・整理シートのRIASECに分類された六角形のシート上に並べる。

プロフィールの特徴を把握した後は、職業名で共通した要因を考えてみる。(20分～15分程度)

ペアで回答者役を交代して同様に実施する。

自信があるー自信がない の分類カードを使って、興味と同様に実施する。

実施の様子

カードの分類作業に要した時間では、最初は20分であったが、交代しての実施では15分間に短縮された。また、自信についての分類作業でも15分で実施できた。

ペアによる実施で話し合いや相談ができ、主体的な学習態度が見られた。

職業名の6分類から、自由に連想してその傾向を考察させたところ、「アウトドアが多い」とか「会社員のような仕事を嫌っている」といった意見が出てきた。

結果・記録シートを使って、興味と自信のマトリックスをつくり、職業名から結果を考察する。

興味と自信のマトリックス

興味

自信

	やりたい	どちらともいえない	やりたくない
自信がある	職業名のカード	職業名のカード	職業名のカード
どちらともいえない	職業名のカード	職業名のカード	職業名のカード
自信がない	職業名のカード	職業名のカード	職業名のカード

VRTカード結果一覧表

興味領域			
	やってみたい	どちらとも言えない	やりたくない
自信 がある	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
自信 領域 どち らとも 言え ない	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
自信 がな い	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()
	[] ()	[] ()	[] ()

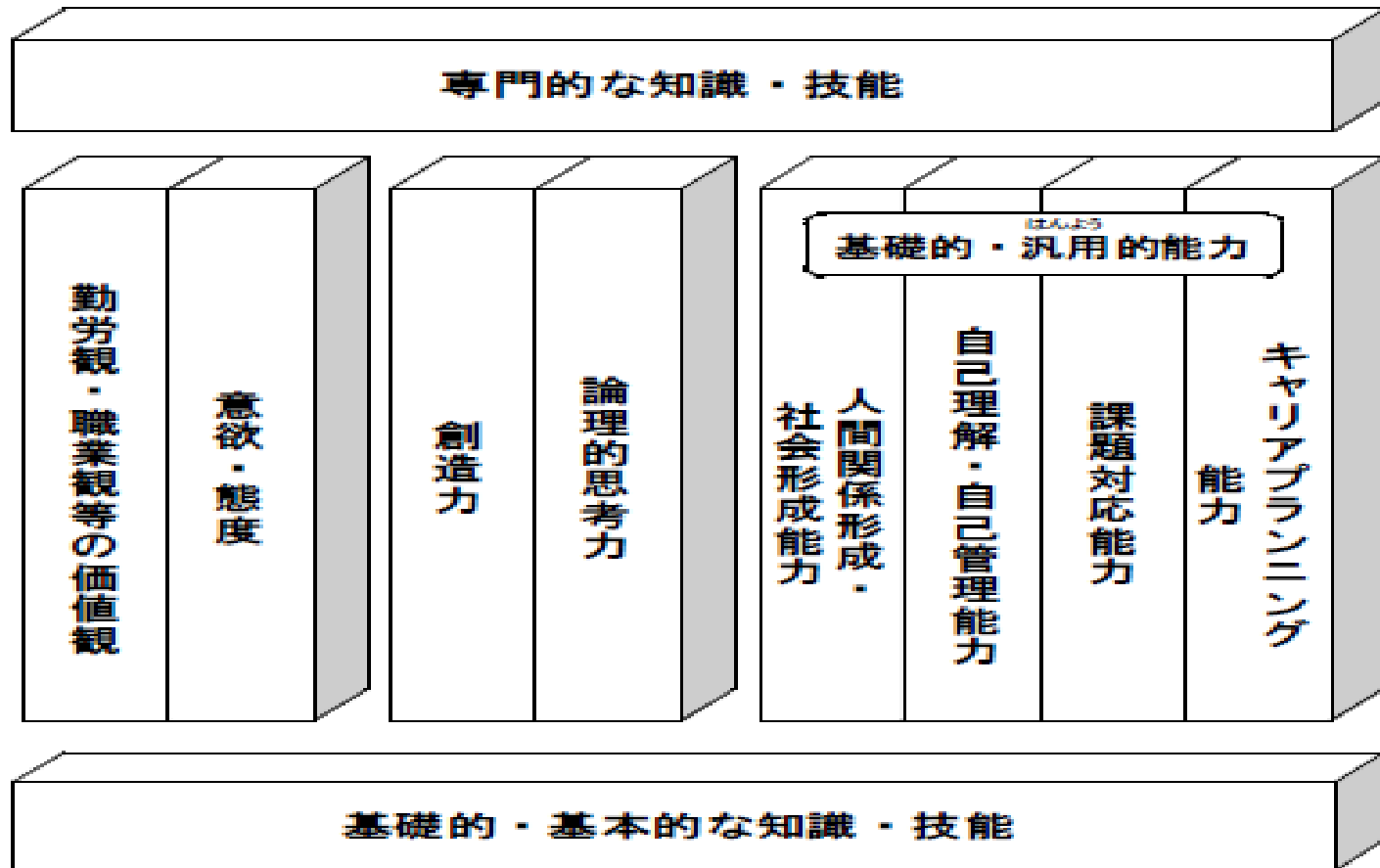
VRTカード結果・記録シートを使って興味領域と自信領域の結果を書き写す。

[]の中にカード番号を入れる。

()の中にRIASECの記号を入れる。

()の横に職業名を書き入れる。

【「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素】



(資料出所:中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)2011年1月)

学習内容で求められる能力を高めることは難しいが、
学習方法によって高めることができる。

自己理解			基礎的・汎用的能力									
テーマ	A-4 VRTカードを使った自己理解1(興味)		人間関係	社会形成	自己理解	自己管理	課題対応	キャリアプラン	論理的思考力	創造力	意欲・態度	勤労観・職業観
ツール	VRTカード											
ねらい	カードソート法による職業興味の志向性について自己理解を深める。 ペア学習を通して、コミュニケーション能力を高め相互理解を深める。											
実施学年	1年生後期～3年生前期											
実施時期	職業レディネステスト(A-2)の実施後が望ましい											
適正人数	40名～80名											
実施手順	学習の流れ	時間	留意事項									
	本時の説明(カードソート法の概要、実習のねらい)	10分	授業の流れと授業のねらいについて説明する。									
	実施方法の説明	5分	興味のみ実施し、ペアで読み上げ方式でおこなう。									
	カードと資料の配付	5分	二人一組のペアとなり、一人1セットずつ配布かペアごとにVRTカード一組を配布する。									
	カードソート法の実習(職業興味による分類)	20分	実施者は職務内容が書かれているカードのおもて面(番号とカードの内容)を一枚ずつ読み上げ、受検者(ペア)に手渡します。受検者はその内容に興味があれば「やりたい」、興味がなければ「やりたくない」、判断ができなければ「どちらともいえない」に分類します。一人が済んだら役割を交代して実施。									
	分類結果の記録	10分	54枚すべてのカードの分類が終了したら、結果・記録シートを使って分類結果を結果・記録シートに記録します。「やりたい」に分類されたカードの番号をシートの表で見つけて をつけていきます。「どちらともいえない」「やりたくない」についても同様に行います。パートナーにカード番号を読んでもらってもよい。									
	解釈の方法の説明	5分	「結果・整理シート」を配布し実施方法を説明する。									
	自分とパートナーの結果の解釈	30分	「やりたい」に分類されたカードを裏返し、職業興味の6領域(RIASEC)の記号ごとに、結果・整理シートの周りに並べます。各領域に何枚のカードがあるか、どんな内容のカードが多いか、興味のある領域には他にどんな仕事があるかなどを実施者と受検者が対話形式で確認します。「どちらともいえない」「やりたくない」に分類されたカードについても同様に行います。終わったら交代して同様に実施します。									
講師からのコメント	5分	本時のねらいが達成できたか確認する。道具とシートは回収(次回にも使用のため)。次回は自信で分類することを予告。										
評価観点	実習を通して自己理解を深められたか。 パートナーと協調して作業を行うことができたか。											
資料	VRTカード	販売価格(労働政策研究・研修機構) 本体 800円 + 税										
	結果・記録シート	カードを選択した結果を記録しておくシート 結果・記録シートセット(A4判 / 20枚入) 本体価格 100円 + 税										
	結果・整理シート	選択した結果を六角形の領域において志向性について解釈するシート 結果・整理シートセット(A3判 / 20枚入) 本体価格 200円 + 税										
	その他の関連販売(労働政策研究・研修機構)	利用の手引 本体価格 500円 + 税 (事前に実施方法を学ぶために必要です) カードセット(セット内容):カード、結果・記録シート(A4判)1枚、結果・整理シート(A3判)1枚 本体価格 900円 + 税										
	VRTカード事例集 VRTカードの活用と実践に向けて (ダウンロード)	http://eforum.jil.go.jp/institute/seika/vrtc card/case/index.htm										
備考	少人数の実施であったり、実施者が慣れている場合には興味と自信を両方実施することもできる。											
	利用の手引を事前に読んで、VRTカードの内容を理解しておく必要がある。											

自己理解			基礎的・汎用的能力									
テーマ	A-6 VRTカードの結果を使った自己理解3(分析)		人間関係	社会形成	自己理解	自己管理	課題対応	キャリアプラン	論理的思考力	創造力	意欲・態度	勤労観・職業観
ツール	VRTカード											
ねらい	VRTカードの結果を使って職業興味と自信の関係から更に職業的志向性の理解を深める。 グループ活動を通して、他者理解や自己理解を深める。											
実施学年	1年生後期～3年生前期											
実施時期	VRTカード(A-4またはA-5)の実施後											
適正人数	40名～80名											
実施手順	学習の流れ	時間										
	実施方法の説明	5分	授業の流れと授業のねらいについて説明する。資料 各自持参、～ 配布する									
	実施の準備(ペアづくり)	5分	できれば前回のペアと一緒に作業する。									
	カードと資料の配付	5分	二人一組のペアとなり、一人1セットずつ配布かペアごとにVRTカード一組を配布する。									
	結果・記録シートの結果から「やりたい」VRTカードを抜き出し、資料 を使って自信があるかないかで分類する。	20分	[]の中にカード番号を入れる。 ()の中にRIASECの記号を入れる。 ()の横に職業名を書き入れる。 自信がある、どちらとも言えない、自信がないの境目に横線を入れて分ける。 自信についての3分野で職業名を見て共通している点や気付いたことについて記述する。									
	結果・記録シートの結果から「どちらともいえない」VRTカードを抜き出し、資料 を使って自信があるかないかで分類する。	20分	上記と同様									
	結果・記録シートの結果から「やりたくない」VRTカードを抜き出し、資料 を使って自信があるかないかで分類する。	20分	上記と同様									
	グループ内で各自の発表	10分	興味と自信による職業志向性について発表する。									
	講師からのコメント	5分	本時のねらいが達成できたか確認する。VRTカードは回収する。									
評価観点	職業興味と自信の関係から更に職業的志向性の理解を深めることができたか。 グループ活動を通して、他者理解や自己理解を深めることができたか。											
資料	結果・記録シート	VRTカード実施で使用した興味と自信の結果を記録したシート										
	VRTカード結果分析シート(やりたい)	「やりたい」カードの自信尺度での分類シート										
	VRTカード結果分析シート(どちらともいえない)	「どちらともいえない」カードの自信尺度での分類シート										
	VRTカード結果分析シート(やりたくない)	「やりたくない」カードの自信尺度での分類シート										
	VRTカード											
備考	本時を実施するためには、「興味」(A-4)と「自信」(A-5)の両方の事前実施が必要。											